JFA会報 | エアロンカ（隔月発行）

AERONCA

【Japan Flying Association / JFA】 since1953

2023年1月1日発行　第591号

発行所

一般社団法人 日本飛行連盟
〒105-0004
東京都港区新橋1-18-1航空会館
TEL:03-6268-8755
FAX:03-3502-0680
E-mail:jfa1953@seagreen.ocn.ne.jp
HP:http://jfa1953.org

謹賀新年

JAPAN FLYING ASSOCIATION 70th Anniv

Red Cross Squadron 60th Anniv

Ohtone AD 55th Anniv

昨年は大変お世話になり有難うございました

ここ数年のウイルス感染対策や、航空界をとりまく諸情勢は厳しいものがありますが皆様方のお陰で、今年弊社団は創立70周年、赤十字飛行隊は創設60周年、大利根場外離着陸場は開設55周年を迎えます

組織の健全な運営と発展、航空安全のため微力ながら最善の努力をして参ります

本年もご支援の程どうぞよろしく御願いいたします

TABLE OF CONTENTS

- 理事長の年頭挨拶 …… P2
- 隊長年頭挨拶、飛行隊活動報告 …… P3~5
- 空中衝突防止装置(TCAS)の作動について …… P6
- 赤十字飛行隊の活動と安全確保　奥貫　博 …… P7
- JFAサロン …… P8

年頭挨拶

一般社団法人 日本飛行連盟
理事長　**中澤　愛一郎**

あけましておめでとうございます。
旧年中はお世話になりました。今年も引き続きよろしくお願い申し上げます。

昨年12月には故高橋淳氏のお別れ会も行う事ができました。
赤十字飛行隊の新たな隊長に新永隆一氏が就任され、新たな活動が期待されます。

残念ながら、昨年も航空事故がありました。
私も長年、飛行機のインストラクターを行なっていましたが、つくづく感じる事があります。それは何かというと、何か突発的な危険を感じると、人間は身を縮こませます。これは人が持つ本能的なものだと思います。一方、飛行機は絶対にある速度以下では飛べません。主翼に揚力が発生して飛んでいますので速度が必要です。したがって、何か危険を感じた時には、危険を感知して、身体を縮こませたい本能に逆らって、操縦桿を押さなければなりません。この操作だけが本能に逆らった動きのため、常に訓練をしなければならないのでは無いかと思っています。
何かあった時に咄嗟に操縦桿を押す事を忘れないでください。
常に突発的な事、機体の不具合があると思って飛んでください。
飛ぶことに慣れれば慣れるほど、ただ単にチェックリストに従って操作するようになってしまいます。その慣れに流されずに、離陸直後にエンジンが止まったらどう処置しようとか、グライダーであれば、ウインチや曳航機に何かあったらどうしようかと言う事を毎回、ちらっとでもいいので、頭の中で反芻してください。

離陸直後に何か不具合があった場合、本能的に身体が縮こまり、操縦桿を引き、離陸地点へ帰ろうとします。高度が低いので、心理的に怖く、あまりエルロンで機体を傾けられず、早く戻りたいのでラダーを大きく使います。これは典型的なスピンの操作です。
自分の機体の主翼のスパンの半分以上の高度が有れば、バンクはいくらでも付ける事ができます。高度が高かろうか、低かろうか、旋回半径に対するバンク角は変わりません。そして、絶対にそのバンクに応じた対気速度が必要です。地上で余裕のある時には、当たり前に理解できる事ですが、突発的な事態になった時には、その操作ができないものです。
これらの操作は繰り返しの訓練でしかできません。

それらの事柄をいつも反芻して、安全に空を楽しみましょう。

本年もよろしくお願いいたします。

一般社団法人 日本飛行連盟
第五代 赤十字飛行隊隊長　**新永　隆一**

謹んで新春のご祝詞を申し上げます。
皆様におかれましては希望あふれる輝かしい新年をお迎えのことと、心からお喜び申し上げます。
また、旧年中は温かいご支援とご協力を賜り、深く感謝いたします。

私は昨年、五代目飛行隊長という大役を拝命し、一層身の引き締まる思いで新年を迎えることとなりました。
この多様化した世界で、何が正解なのか、答えを導き出すことは簡単ではありません。
正解のわからない今を生き抜くために大切なこと。それは、とにかく何かを決断し、動いてみることではないでしょうか。
決断力と行動力がなければ何事も成しえません。無論、人道の実現のためにも不可欠なことです。
私は、赤十字飛行隊の隊長として、赤十字の基本原則に従って決断し、行動をしていこうと気持ちを新たにしております。
経験豊かな皆様のご協力を賜りたく存じます。
日本赤十字社の「わたしたちは、苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳をまもります。」という「使命」に今一度立ち返り、飛行隊に出来ることは何なのか、私たちにしかできないことが何かあるのではないか、改めて考えていきたいと思います。
未曾有の事態において行動を起こすことのできる人間は、平時に想像力を働かせ、あらゆる事態を想定し、シミュレーションを繰り返した者ではないでしょうか。これはまさにパイロットに必要とされる資質であるとも言えます。
あらゆる分野で研鑽や精進をなさっている皆様と議論を重ね、シミュレーションを重ね、赤十字飛行隊の使命を果たしてまいりたい所存です。
飛行隊員全員の心を一つにし、飛躍の年と致しましょう。

赤十字飛行隊

山形支隊

令和4年9月11日(日)山形空港フェスティバル2022
令和4年10月2日(日)庄内空港フェスティバル2022

山形空港フェスティバルでは、安孫子善一 山形支隊,副支隊長のJA4126による機体展示のみとなりました。庄内空港フェスティバルはフェス日程の度々の変更となったため、残念ながら飛行隊は参加を中止した。

群馬支隊

令和4年9月10日(土)令和4年度群馬県総合防災訓練

中澤敦副支隊長、湯本正一隊員と共にアマチュア無線奉仕団の隊員1名同乗で、3名により応急用無線局開設訓練を実施。 R44 JA01CG時間 0+20

令和4年10月30日(日)西東京市総合防災訓練

メインフライト会場/東伏見公園、展示物/スカイタワー西東京にて飛行隊、及び群馬支隊の活動パネルを展示

令和4年10月30日(日)
群馬県渋川市アマチュア無線非常通信協議会通信訓練
会場:渋川市役所危機管理室本部、群馬県渋川市上空、溝呂木ヘリポート等

西東京市総合防災訓練では、株式会社エフエム西東京との地域災害情報などの通信訓練を実施。また渋川市では東日本大震災の教訓をもとに恒例の訓練で、避難誘導訓練や初期消火訓練、寝たきり者の搬出訓練、応急手当訓練等予定されていましたが、感染症流行のため非常通信訓練及び上空よりの情報収集訓練が行われました。飛行隊は群馬県渋川市上空を飛行しながら市内の情報を収集し、群馬県赤十字アマチュア無線奉仕団を通じて訓練本部へ伝達しました。その後溝呂木場外ヘリポートに着陸し、支援物資の搬送訓練を行い、訓練を完了した。

赤十字飛行隊群馬支隊	：中澤　敦
赤十字アマチュア無線奉仕団	：伊藤　明・辻　佳英・吉田　寛（群馬県赤十字飛行隊支援奉仕団員）
機　体	：R－66　JA91AY
時　間	：1＋10／9時40分　前橋市西善場外離陸～西東京市～10時50分　溝呂木場外着陸 0＋20／12時00分　溝呂木場外離陸～12時20分　前橋市西善場外着陸

愛媛支隊　令和4年10月25日(火)愛媛県特攻戦没者慰霊追悼式典

松山空港を離陸し、愛媛県西条市で行われる愛媛県特攻戦没者慰霊追悼式典における上空飛行。4機参加のため飛行前の点検、打ち合わせは綿密に行い安全運航に徹しました。

JA3828 C172	：米山徹朗　上岡良久　高橋浩
JA3601 FA200	：吉野浩三　清水裕迪
JA3630 FA200	：上野雅樹　桧垣直彦　長曾我部健作
JA3907 FA200	：日野健治　藤田浩二　三好一男
時　間	：1 +45

調布支隊(本部)　令和4年10月23日(日)午前9時～正午　令和4年度府中市総合防災訓練

府中第七中学校にて訓練参加者へ飛行隊の広報活動を行った。4年前は群馬支隊へ協力を依頼し、フライトも実施できたことがあったが、今年は日程が合わず府中市被災想定地の上空フライトは断念。

佐賀支隊　県支部との活動

日赤佐賀県支部との活動では10月14日「災害発生時の赤十字ボランティア活動について」で防災ボランティアセンターの立ち上げ及び運営訓練に参加。
佐賀支隊実働参加者3名、LINEでの連絡訓練8名参加。支隊における主体的かつ、積極的な活動推進と日赤の奉仕団相互の連携を密にするため、特殊奉仕団、無線奉仕団、特殊輸送奉仕団との共同訓練の実施などを計画し、今後のボランティア活動の推進を図っています。なお、使用機体はフライングクラブ佐賀の所有機で、昨年まで使用していたC172Pから、パイパーに更改。PA-28-161をクラブ会員である元航空自衛隊教官の指導のもと、完熟訓練を実施している。

―― 以下は3月号にて掲載いたします。 ――

熊本支隊：12月6日、熊本支隊の協定先である「NTTドコモ九州支社ネットワーク部災害対策室」との第1回空撮映像検証訓練が無事実施されました。

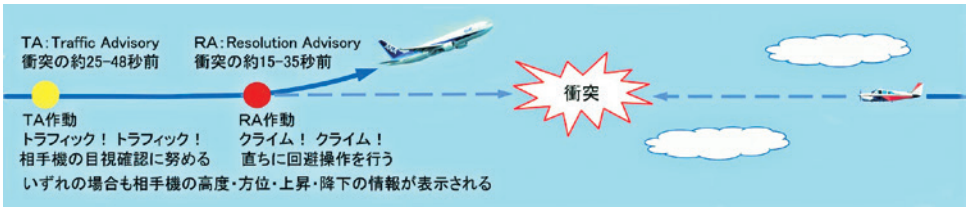
群馬支隊：「ステキな村キャンプ場」
群馬支隊では群馬県に新しくオープンしたヘリコプターの場外離着陸場と防災協定を結びました。

令和4年12月18日(日)、弊社団名誉会長・第四代赤十字飛行隊隊長であった髙橋淳 偲ぶ会を執りおこないました。多くの皆様から、偲ぶ会へのご厚志を賜りましてまことに有り難うございました。この模様は3月号にて掲載いたします。

本紙11月号、P2～3　日本赤十字社事業局パートナーシップ推進部部長、磯 則和 様のお名前表記に間違いがありました。ここに訂正しお詫びいたします。　誤)　磯　規和　→　正)　磯　則和

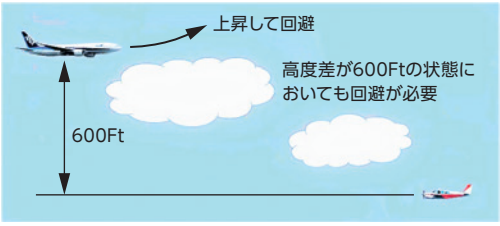
空中衝突防止装置（TCAS）の作動について

空中衝突防止装置（TCAS）は、地上設備に頼ることなく、相手航空機のATCトランスポンダーから得た位置、高度及び速度の情報に基づいて、必要な回避操作等をパイロットに示すことにより航空機の衝突を防止する機上装置を言います。
航空法施行規則により、客席数が19または最大離陸重量5,700kgを超え、タービン発動機を装備した航空運送事業に供する航空機はTCASを装備しなければならない、と定められています。
VFR機の側で問題ないと思われる飛行状況であっても、大型機の回避行動につながることがあります。TCASを理解し、TCASの作動状況を作らないことを心がける必要があります。

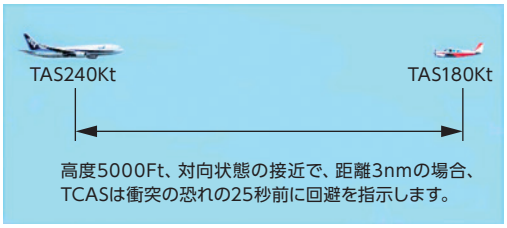


空中衝突防止装置（TCAS TA/RA）の作動

- 大型機のパイロットは、小型機の存在と接近を脅威に感じています。
- TCASの迷惑作動（Nuisance RA）は、年間約50％程度の割合で発生しています。



TCAS RA作動の例（1）



TCAS RA作動の例（2）

- 航空交通の輻輳空域での飛行の際は、ATCトランスポンダーMode C の常時作動が必要です。
- TCA*1との通信設定により、自機の位置とともに、関連航空機の情報を入手することで、相手機が視認できない状況においても、接近を回避することが可能になります。 *1 TCA: Terminal Control Area
- また、TCAに要求することによりレーダー誘導を受けることも可能で、PCA*2への無許可進入等を防ぐことにつながります。 *2 PCA: Positive Control Area
- その他の空域においても、管制機関からのレーダーモニター、広域対空援助機関からの交通情報の提供を受けることで、周辺の交通状況を把握しながら飛行することが可能となります。
- 航空情報サーキュラーとして AIP Japan AIC 033/09 に「有視界飛行方式により飛行する航空機の異常接近防止対策について」が発行されています。
- TCA アドバイザリーについては、AIP Japan GEN3.3 航空交通業務に記載されています。VFR機からTCAに対して、飛行経路や高度を知らせることで、接近を回避する助言が可能となります。
- TCAでは空域に関する注意喚起の情報を提供することができます。TCAへの、積極的なコンタクトを心がけるようにしましょう。

出典： https://www.mlit.go.jp/common/001516095.pdf （抜粋）

赤十字飛行隊の活動と安全確保

奥貫　博

赤十字飛行隊の結成は、1963年のことでした。その最初の活動は、翌1964年6月の新潟地震での緊急出動でしたが、その後、湘南海岸パトロールでの人命救助、伊豆大島の大火災の輸送支援、米子への特殊な血液の緊急輸送等を通じて、その存在が広く認められるところとなり、赤十字飛行隊の様々な活動が展開されることとなりました。

当時の赤十字飛行隊の通常時の活動は、海岸パトロール、山岳パトロール、医薬品等重量物の物量傘による投下、通信筒投下、血液輸送等でした。これらの中で、海岸パトロールは、救命用のブイ（オレンジ色の浮き輪）と、通信筒を搭載しての飛行で、調布飛行場からの湘南海岸パトロールの他、千葉県旭市の海軍飛行場跡地の離着陸場を利用した九十九里海岸のパトロール等も実施され、多くの人命救助の成果を上げていました。

また、各支隊の巡回訓練や、全国の支隊を対象とした集合訓練では、飛行機による、通信筒や物量傘の投下等の、安全で確実な実施に向けての訓練が行われてきました。

当時の活動は、飛行機によるものが主体でしたが、1990年代に入ると、ヘリコプターによる活動が増え始め、その大きな転機になったのが、熊本支隊による、1995年の阪神・淡路大震災での出動でした。

この時の出動は、大地震発生の情報を得た熊本支隊が、日赤兵庫支部に連絡をして、支援の申し入れを行い、要請を受けた粉ミルク160人分を、隊員が手分けをして近所のスーパー等から買い集めた後、新永隊員（現在の赤十字飛行隊長）他1名が、R44ヘリコプターで熊本空港を出発して、被災地の神戸市の緊急離着陸場の公園に運び込み、手渡しをしたものでした。

ヘリコプターによる活動は、この熊本支隊によるものの他、和歌山、神奈川、群馬、大阪等の各地で急速に普及し、それと共に、従来の、飛行機による赤十字飛行隊活動とは異なる形で、被災地に着陸する等、現地の人々と直接触れ合う活動が展開されるようになり、地上の人達との連携及び安全確保が大きな課題となってきました。

ヘリコプターによる救援物資の輸送（熊本支隊）

このようなヘリコプターによる、新しい救難活動の展開に際し、それまでの、飛行機での活動を主体とした「赤十字飛行隊・救難飛行実施要領」の内容では不十分であったため、見直しが実施され、次の３項目が新規に追加となりました。

- 広報活動
- 情報収集活動
- ヘリコプターによる出動

これらはいずれも被災地の人々との連携で行う救難活動のために必要となるものです。

特に、ヘリコプターで被災地に着陸して行う救難作業に際しては、飛行と地上の安全確保についての十分な注意と確認が必要ですので、離着陸場の必要要件や、着陸したヘリコプターへの接近要領等、その細部は全て、新しい「赤十字飛行隊・救難飛行実施要領」に、詳細に記載されています。

それら内容を、赤十字飛行隊の隊員はもとより、地上活動を含むすべての関係者にもれなく周知し、理解していただき、必要な内容が実行された結果が安全の確保ということになります。

そのためには、救難飛行活動に関連する地上活動の組織等との事前の調整や協定等により、実施すべきことと役割等を明確に決めておき、安全確実な実行を目指すことが必要です。

諸先輩隊員の方々が築き上げてきた、赤十字飛行隊出動無事故の歴史を、新しい隊長の元、全員の努力によって継続していきましょう。

JFAサロン

自然・健康・文化の郷、色々楽しめるユメノバ
ザ・ヒロサワシティ

１１月号で、兵庫県加西市の鶉野飛行場跡地に「Soraかさい」がオープンしたことをお知らせしましたが、今回は関東のテーマパーク施設を御案内いたします。

ここは１００万㎡の広さがあり、乗り物・テーマパーク・他にゴルフ場に、車中泊キャンプ場など見る・楽しむ・体験するが一度にできるパークです。その中でも乗り物テーマパークエリアは「ユメノバ」と名付けられました。乗り物好きな方には一度で色んなものを目にすることができるユメノバです。暖かくなったらこうした広々とした所へ遠出するのも良さそうですね。

見る

美術館,クラシックカーミュージアム,クラシックバイク,レールパーク（鉄道)科博廣澤航空博物館（YS11を中心とした航空展示）花木園、四季折々の花

楽しむ

18ホールのゴルフコース,パークゴルフ,オフロード,MTBオフロード,BBQ,ドッグラン・ピロス,マラソンコース

泊まる

広々ロッジ,ドームハウス,カースティ(車中泊),楽々キャンプ他にも不定期で特設ステージが設けられ、各種イベントなども開催される

アクセス
鉄道　JR水戸線/関東鉄道常総線/真岡鉄道 … 下館駅 南口　タクシー10分
バス　JR水戸線下館駅北口から … 筑西道の駅循環バス22分　廣澤美術館下車

〒308−0811　茨城県筑西市 ザ・ヒロサワシティ　TEL0296-21-1234　FAX0296-24-7837
ザ・ヒロサワシティ　検索▶　https://www.shimodate.jp/

事務局

旧年中は大変お世話になりまして、まことに有難うございました。
ここ数年、事務局ではウイルス対策で思うような活動ができなかったのですが、今年は、皆様とともに交流が持てるような年を理想としています。
皆様、どうぞ益々ご健勝でありますように心からお祈り申し上げます。

もうこれは不要にしたいですね

お年玉！もらえない歳なので・・努力で貯めてもうじき誕生エースパイロット♪